

浴室リモコン 工事説明書

SHC80BQ



■お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています

注意 この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

- リモコンの取り付けが完了するまで、機器本体の電源プラグはコンセントに差し込まない。
- エコ・ケアセンサーレンズの保護シートをはがさない。また、傷や変形をさせないよう慎重に取り扱う。
- リモコンのエコ・ケアセンサーレンズがある面を下側にして置かない。
※エコ・ケアセンサーレンズが変形したり破損する恐れがあります。
- ネジ止めは必ず手締めで行い、リモコンががたつかない程度に締め付ける。
※電動ドライバーなど、絶対に使用しない。締め付け過ぎるとケースが変形し不具合が発生する恐れがあります。
- リモコンは段差の無い壁面に取り付ける。
※段差がある壁面に取り付けるとケースが変形して、不具合が発生する恐れがあります。
- 音声スピーカが内蔵されているリモコンに、金属くずが付着すると音割れなどの原因になります。
リモコンに金属くずなどが付着しないように、壁に取り付ける直前に袋から取り出す。
- インターホンリモコンでは、台所リモコン・浴室リモコンの機器側接続は同一熱源機器内のリモコン端子に接続する。
※通話ができなくなります。
- インターホンリモコンでは、リモコン間が近い場合(壁を挟んでいても同様)にハウリング(キーンなどの大きな音がする現象)を起こすため、工事前に仮配線を行いハウリングが発生する場合は解消できる位置までリモコン間の距離を離してください。確認の際は、浴室の扉を閉めた状態で行ってください。
※ハウリングが収まらない場合は、お客様に説明した上で通話音量を下げてください。
- リモコンコードは他の電気製品の電源コードと離して配線する。
※洗濯機・冷蔵庫・衣類乾燥機などの電源コードと近接・併走配線すると、機器が作動しないことがあります。また、テレビ・ラジオ・ステレオなどの電源コードと接近して配線すると、テレビなどの画像・音声にノイズ(雑音など)が入ることがあります。

お願い

- 壁に穴を開けるときの、大きく開け過ぎると固定できなくなるので注意する。
- リモコン取付工事に必要の無いネジは絶対に締め付けたり、ゆるめたりしない。
- 壁に貫通穴を開けるときの、壁内部にある柱・鉄筋の位置を確認して、取り付け位置を決める。
- リモコンコードは当社別売品の2心リモコンコードを使用する。
- リモコンコードは、動かないようにステップルなどで固定する。
- リモコンコードは熱の影響を直接受けないところに配線する。
- リモコンコードをコンクリートなどに埋め込む場合には、電線管などに収め、リモコンコードを傷つけない。
- メタルラス張りなどの壁を貫通する場合は、メタルラスと金属電線管が電気的に接続しないようにする。
- リモコンコード長が25m以内になるように配線工事を行う。
ただし、機器側でリモコンコード長が指定されている場合は機器側に従う。
- リモコンコードの接続は、機器本体の端子台にする。(機器本体に付属の工事説明書参照)
- 次の法、基準に従って設置する。
「電気設備に関する技術基準」 「電気工事士法」 「内線規定」 「電気用品安全法」 「ガス機器の設置基準及び実務指針(日本ガス機器検査協会発行)」

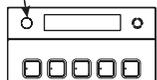
工事後の確認

1. リモコンが確実に固定されているか確認する。
2. リモコンの動作を確認する(取扱説明書参照)
 - 運転ON/OFFスイッチを「入」にして温度表示の点灯を確認する。
※電源を入れてから約5秒後にスイッチ操作をする。
 - リモコンに表示が出ていることを確認する。
 - エコ・ケアセンサーランプが点灯することを確認する。
※電源を入れてから約30秒後に確認する。

お客様への説明

- 機器本体の取扱説明書に従って「安全上のご注意」「使いたた」「アフターサービス」について説明する。

付属部品 ()内は数量です

リモコン本体	壁パッキン	オールプラグ	+丸木ネジ
エコ・ケア センサーレンズ 			
(1)	(1)	(2)	(2)

形状は製品により異なります。

設置前の確認

はじめに

- 電源が投入されていない(ブレーカが「切」または機器本体の電源プラグが抜いてある)ことを確認する。
- 付属部品を確認する。

設置場所のご注意

- お客様と相談(「■浴室リモコン(エコ・ケアセンサー)取り付け位置について」も参照)して使いやすい場所を選ぶ。(お客様の承認をもらう)
- 低電圧で防水もしており危険はありませんが、浴室内のなるべくお湯または水のかからない場所で操作しやすいところに設置する。
- 下記の場所には取り付けない。
 1. 壁の内部にある柱や鉄筋に貫通穴がひっかかるところ
 2. 特殊薬品を使用するところ(ベンジン、油脂系の洗剤など)
 3. 屋外や直射日光のあたるところ
 4. 屋外カバーに温水、湿気または水が直接かかりやすいところ
 5. リモコンにふるフタなどが当たるところ。

リモコンコードの確認

各社(ガス会社、OEM)指定品がある場合、必ず指定品を使用する。
それ以外の場合はリモコンコードSを使用する。
リモコンコードSを使用する場合は下記に注意する。

2Pコネクター → **リモコン側** Y型端子(2心) → **給湯器側**

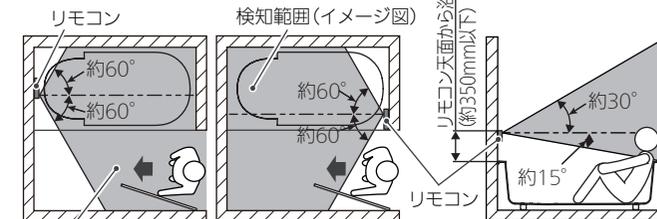
- リモコンコード両端のラベルと合っていることを確認する。
- リモコンコードは次のものがあります。
現場の条件により必要な長さのものを使用する。
3m 5m 8m 10m 15m 20m 50m
※50m使用時は必要な長さ(25m以内)に切って使用する。
※50mはY型端子・コネクター・ラベルは取り付けられていません。
50mを使用する場合は必ず樹脂スリーブ付きY型端子(現場手配)及び閉端接続子(現場手配)を使用し取り付け。
また、ヒゲが出ないように注意、防水処理をする。
ヒゲが出た場合は必ずY型端子を取り付け直す。
ヒゲが他の部品に接触し、機器の故障の原因になります。

浴室リモコン(エコ・ケアセンサー)取り付け位置について

- 浴室に人が入った時や入浴中にエコ・ケアセンサーが確実に検知する位置に取り付ける。
※検知範囲に人が通らないような場所に設置しない。
※検知範囲に冷暖房機器などの発熱体や吸熱体がある場所に設置しない。
非検知や誤動作の原因になります。

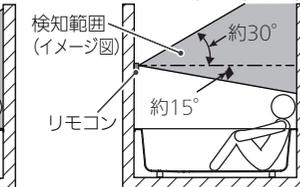
<取り付け例>

- 上方図(入室時)
- 正面図(入浴時)



<検知しにくい取り付け例>

- 正面図(入浴時)
※リモコンを高い位置に取り付けると入浴時の人の検知がしにくい場合があります。



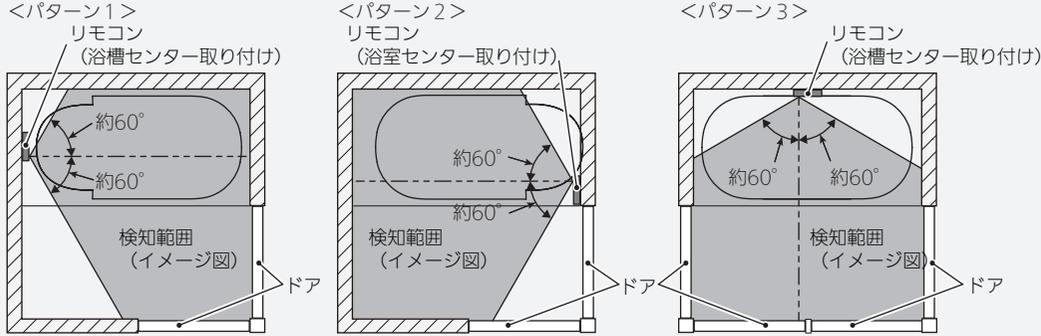
※リモコンの取り付け位置が高い場合や、約5分間浴室内で人が動かない場合人が退室したと判断し、エコ・ケアランプが消えることがあります。

裏面へつづく

取り付け位置の確認

■リモコン取り付けパターン

リモコン取り付けパターンによって、エコ・ケアセンサー検知範囲が異なります。下記パターン図を参照し、リモコン取り付け位置を選定してください。本書をリモコン取り付け面に当て、エコ・ケアセンサー検知範囲(図10)を参考に人を検知できる位置に取り付ける。
※2ページ「浴室リモコン(エコ・ケアセンサー)取り付け位置について」も参照する。



取り付け方法

■壁内配線の場合

- 浴室内を養生する。
※ネジキャップが落下した際に、部品の紛失を防ぐためにも排水口等は必ず塞ぐ。
- リモコンコードを通す穴φ14~φ32の穴をあける。
※タイル壁などに穴を開ける場合、ひび、われ、カケに注意する。

<ユニットバスなどの壁パネルに取り付ける場合>

- 取付用穴(φ3)を開ける。
※右のようなUB裏補強材が必要です。(図1)
[UB裏補強材はあらかじめ壁パネルの裏側に取り付けておく]
壁パネル厚に対応した+丸木ネジが必要です。(現場手配)
※ユニットバスなどの壁に穴を開けた際は、必ず穴のバリを取り除く。

<在来浴室のRC壁やブロック壁などに取り付けの場合>

- 穴(φ6:深さ25~30mm)を開けオールプラグを打ち込む(図2)
※タイル壁などに穴を開ける場合、ひび、われ、カケに注意する。

- 室内側からリモコンコードを通す。この時、コネクター仕様では2Pコネクターが必ず室内になるようにする。
- リモコンのネジキャップ(左右2か所)を取り外す。(図3)
※リモコンのネジキャップを取り外す場合は、図の様にネジキャップを手前に引いて外す。この際に表示部に傷が付かないように注意する。また、ネジキャップを落とさないよう注意する。
※スイッチ部は触らない。

- 壁パッキンを、リモコン本体裏面に貼り付ける。(図4)
※壁パッキンに表裏はありません。
※壁パッキンをカッターなどで絶対に切らない。
防水性能が低下し、水侵入などの故障の原因になります。

- リモコンコードと継ぎ手コード(コネクター仕様はコネクター)を接続する。(図4)

図1 (単位:mm)

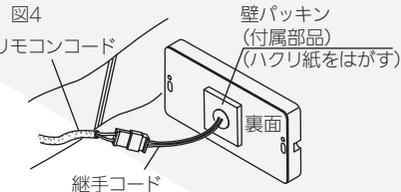
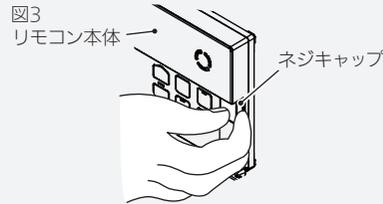
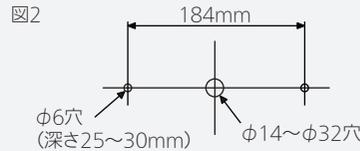
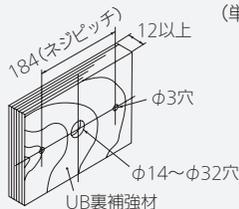
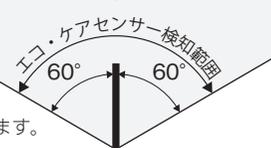


図10
※本書を使用する事でエコ・ケアセンサー検知範囲を確認する事が出来ます。



- リモコンコードや継ぎ手コードの線端みに注意し、+丸木ネジ2本で、リモコン本体を壁面に固定する。(図5)

※電動ドライバーなど、絶対に使用しない。締め付け過ぎるとケースが変形し不具合が発生する恐れがあります。
※+丸木ネジを使用せず壁パッキンだけで取り付けると水浸入などの故障の原因になるので絶対にしない。
※リモコンコードに付着した水滴や油がリモコン内に侵入しないよう、リモコンコードをU字トラップ状に配線する。

- 先に取り外したネジキャップを取り付ける。ネジキャップを奥までパチンと音がするまで強く押し込む。
※ネジキャップの取り付け忘れに注意する。

- リモコンがしっかりと固定されていることを確認し、浴室リモコンの周囲をコーキングする。(図6)
※コーキングは切れ目が無い様に確実に処理してください。

■屋外配線の場合

※浴室用屋外カーベット(別売品:ノーリツ品番0700757)が必要です。
※+丸木ネジとオールプラグは使用しません。

- 浴室内を養生する。
※ネジキャップが落下した際に、部品の紛失を防ぐためにも排水口等は必ず塞ぐ。
- 壁にφ32mmの貫通穴を開ける。(図7)
- ステーパイプに継手コードを通してリモコン本体にしっかりとねじ込み、壁パッキンを通してリモコン本体裏面に貼り付ける。(図8)
※壁パッキンに表裏はありません。

- 壁穴に継手コードを通したステーパイプ(適応壁厚130~190mm)を挿入する。(図8)
- スリップ防止パッキンを屋外カバーに貼り付ける。(図8)
- 屋外カバーを外壁側に出した継手コードに通す。(図8)
- 袋ナットに継手コードを通し、リモコンが傾いていないか水準器で確認し、ステーパイプに締め付ける。(図8)
※締め付け過ぎるとケースが変形し不具合が発生する恐れがあります。

- 屋外カバーの中でリモコンコードと継ぎ手コード(コネクター仕様はコネクター)を接続する。(図9)
長さのあまった継手コードは、図のところに巻いて処理する。
- 屋外カバーを閉める。
- リモコンがしっかりと固定されていることを確認し、浴室リモコンの周囲をコーキングする。(図6参照)

